

耕平さんかわら版

発行編集部

大塚耕平事務所

☎052-757-1955

Kouhei@oh-Kouhei.org



皆さん、こんにちには。新緑の季節というよりも、夏が近くなってきた感じですね。その前に梅雨があります、くれぐれもご自愛ください。

さて、フランスではサルコジさんという新しい大統領が誕生しました。ロワイヤルさんとの決戦投票でフランス国民は大いに盛り上がったようです。

サルコジさんの政策は「働かざる者、食うべからず。国民はもつと自己責任を」という考え方。ロワイヤルさんは「困っている国民のために政府はもつと責任を果たすべき」という主張でした。

どちらの意見にも一理あります。僕自身は、政治の基本は「国民に余計なおせっかいをしない。困っている国民には手を差し伸べる」ということだと考えています。

「国民に余計なおせっかいをしない」という部分はサルコジさんの主張に近い要素を含んでいます。一方、「困っている国民に手を差し伸べる」という部分はロワイヤルさん

の主張。このふたつは両立可能です。

つまり、「国民に余計なおせっかいをしない」ということの中には、サルコジさんの言う自己責任という意味合いも含まれていますが、国民が必ずしも必要としないモノを造ったり、不要不急の規制を行ったり、無用の口出しをしないということも意味しています。ムダな公共投資や不要不急の支出を減らすことによつて、財源は余るはずですよ。

その財源をうまく使えば、「困っている国民に手を差し伸べる」ことも従来以上に可能になります。ロワイヤルさんの主張を実現できます。

「そんなにうまくいくのかな」と思われる方もいるでしょうが、やればできます。必ずできます。日本では、医療、介護、年金など、社会保障政策の内容がドンドン切り下げられています。その理由を小泉さんや安倍さんに聞くと、必ず「財政赤字だから」と言われます。「どうして財政赤字なのですか」とさらに聞くと、

オウム返しのように「少子高齢化ですから」と言われます。「なるほど」と簡単に納得しないでください。少子高齢化は先進国共通の現象。にもかかわらず、日本だけが他国に例を見ない規模とスピードで財政赤字が膨張。他国で起きないことが起きています。それには何か原因があるはずです。日本独自の原因です。それを解決しなくては、「困っている国民に手を差し伸べる」ことを十分にできません。

「国民に余計なおせっかいをしない」ことによつて、ムダ遣いを減らすことが必要です。「余計なおせっかい」というよりも「国民の財源を遣つて余計なことをする」と表現する方が正確かもしれません。モット、ずつと、しつかり、ムダ遣いを減らす不断の努力を続けていくことが必要です。国会でもそうした姿勢で、引き続き頑張ります。



覚王山ソクソクコーナー

(タイトル文字は書家・山内美風さん<TEL:782-1356>の作品)

—— 覚王山近辺の名店を続々紹介します! ——
<今回は、「駒屋仏壇店」さんです>

「駒屋仏壇店」さんは日泰寺のすぐ手前、参道沿いにあります。

こちらは、なんと **150年**余りの歴史を誇る老舗。創業は江戸時代です。元は、大須で**法衣装**(お坊さんの衣装)をつくっていたお店。曹洞宗総本山の**永平寺**や**豊川稲荷**(実はお寺です)の御用達のお店として、大勢の職人さんがいらしたそうです。

戦後、先々代のご主人が「お釈迦様の御前にお店を構えたい」と、覚王山に移られました。現在は仏壇や仏具の数々を扱っておられます。

「ご先祖に守られて今があります」と語るのは5代目代表の須賀恵子さん。見違えるほど仏壇がきれいになる「**仏壇のお洗濯**」も受け付けております。

ご先祖供養のため、ぜひ一度お訪ねください。

「駒屋仏壇店」: 751-4631
(9:00~19:00 年中無休)

